

学術研究委員会報告

2024年11月20日
学術研究委員会

■委員会開催

- 第1回 2024年8月27日火曜日 16時から18時 Zoom
- 第2回 2024年11月10日日曜日 16時から18時 Zoom

※適宜、Slackにて議論

■若手研究者への国際学会参加支援助成金

- 前期委員会からの引き継ぎ事項を議論し、募集要項を一部改定した。
- 2024年9月9日にWebサイト、9月10日にメーリングリストで募集を行い、10月31日の締切までに、6名からの応募があった。
- 第2回委員会にて、羅 歌、一柳智子、尾形紗希、許 晟源の4名に10万円ずつで決定するものの、会議終了後に一柳智子が「5. 過去に本助成金を得た者」であることが分かった。
- その時点では、応募者には採否が通知されていなかったため、Slackにて再度議論し、2024年11月20日に次のとおりで決定した。

羅 歌、尾形紗希、許 晟源 … 各10万円
寺下和宏 … 4万円
峯村遥香、一柳智子 … 各3万円
計 40万円

- なお、2024年度については、予算の40万円を使い切るため、第2回目の募集は行わない方針である。

■セミナー

現時点で、次の企画が進行中である。

- 「国際学会参加支援助成金 採択者報告会」 2024年12月頃にオンラインで開催予定。採択人数や採択者の予定によっては、2回に分ける可能性もある。
- 過去の学会賞受賞者による受賞作とその後の報告。（編著ではなく単著の書籍限定）
- 「博物館・美術館のコモニングを問う」 2025年2月頃にオンラインで開催予定。
- 「出る本・出た本」 学会員によって出版された書籍について著者に紹介してもらう。松本典子および李妍焱がそれぞれ出版予定があるため、2025年3月頃に合同で1回開催したい。

■スタディグループ

まだアイディアレベルだが、スタディグループの後継として、調査プロジェクトを研究者と実践者で立ち上げ、その結果報告として、NP0学会の「叢書」のような形で公開していくの

が理想的な道ではないか。「叢書」のスタイルとしては、分厚い本もあれば、ブックレットもあるし、PDFだけなど、いくつかの手段が考えられる。